

平成18年度学術創成研究費 中間評価結果

研究課題名	電子機能物質における自己組織化の 解明と応用	研究代表者名	加藤 礼三
-------	---------------------------	--------	-------

1 研究を推進する必要性について

推薦の趣旨に照らし、採択時以降の関連研究分野の学術動向を踏まえた上で引き続き研究を推進する必要性は高いか

- ア(×) 高い
- イ() やや高い
- ウ() やや低い
- エ() 低い

意見：
個々の成果を順調に得つつある段階。次のステップの総括的コンセプト構築に向け、引き続き推進の必要性は高い。

2 研究の進捗状況について

(1) 当初の研究目的に沿って、着実に研究が進展しているか

- ア() 予定以上に進展している
- イ(×) 概ね予定どおり進展している
- ウ() やや遅れている
- エ() 遅れている

意見：
ここまで個々の成果に見るべきものがあり、今後は予定通り「自己組織化」の総括的解明に向けて研究進展すると期待される。

(2) 今後の研究推進上、問題となる点はないか

- ア() 研究経費
- イ() 設 備
- ウ() 組 織
- エ() そ の 他

意見：

3 これまでの研究成果について

当初の研究目的に照らして、現時点で期待された成果をあげているか (又はあげつつあるか)

- ア(×) 期待以上の成果をあげている
- イ() 概ね期待された成果をあげている
- ウ() 期待された成果をあげつつある
- エ() 期待された成果はあがっていない

意見：
個々には期待以上の成果である。今後、テーマに掲げた「自己組織化」の総括概念構築を期待する。

4 研究組織について

研究者相互に有機的に連携が保たれ、活発な研究活動が展開される研究組織となっているか

- ア (×) 有機的に連携が保たれている
- イ () あまり有機的に連携が保たれていない
- ウ () その他

意見：
優れたメンバーの集合体はともすると個々人の活躍で終わることが多いが、本案件の場合相互に専門の補完がよくできているようである。

5 研究経費の使用状況について

研究経費は効率的・効果的に使用されているか

- ア (×) 効率的・効果的に使用されている
- イ () あまり効率的・効果的に使用されていない
- ウ () その他

意見：
各研究者に適切に分配されているようである。

6 研究課題の総合的な評価

該当欄		評価結果
	A +	当初計画を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
×	A	当初計画どおり順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	B	当初計画より研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初計画より研究が遅れ、研究成果も見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

総合的な評価意見：

優れたメンバーの力により、個々の成果は期待以上であるといってよい。今後、テーマに言う「自己組織化」に対する新たな総括概念を生み出すことを期待したい。但し、先人の成果を適切に Refer することが望まれるので、その点を留意されたい。